

＜別紙＞

「Obligato for SaaS」の特長

1. マルチテナントアーキテクチャによるサービス費用の削減

1つの Obligato アプリケーションを複数の企業で共有して利用するマルチテナントアーキテクチャを採用。これによりハードウェアリソースやシステム運用の効率化、また共同利用によるアプリケーション利用料の低減など、サービス費用を大幅に削減。

2. ノン・カスタマイズにより短期間でのサービス利用が実現

PLM ソフトウェア「Obligato Ⅲ」の豊富な機能に加え、多数の導入実績で得たノウハウを元に、標準業務プロセスをあらかじめ実装することで、カスタマイズ不要で利用することが可能。

ノン・カスタマイズでの導入により、初期費用やバージョンアップ費用が最小化され、低コストで短期間でのサービス利用が実現。

市場ニーズに応じた機能強化もクラウド側で行うことで、利用者は常に最新バージョンの利用が可能。

3. パラメータ設定により、業務への柔軟な適用が可能

部品や図面を管理するための項目名（属性）、承認ステータス、アクセス権など業務運用のための基本環境は、パラメータで設定可能。

画面上の属性の表示／非表示や並び替えなども利用者ごとに自由に設定可能。SaaS 型のクラウドサービスでありながらも、利用者にとって柔軟で使いやすい機能を提供。